

## 1 出題の範囲

学習指導要領にもとづいて作成し、内容について偏ることがないようにしました。全商検定の形式を意識しつつも長野県の独自性を入れた問題にしてあります。

## 2 問題の程度

3級の試験範囲全般を取り扱うように考慮し、基本的な理解度を図るための問題作成を心掛けるとともに、試験の時期が早いことも考慮し難易度を調整しました。普段より簿記学習を継続的におこなっていれば、ある程度の目標が達成できるという観点から作問してあります。

## 3 出題の意図

### (1) 第1問

3級の出題範囲全般から、追加元入の処理や給料の支払いにおける源泉徴収、固定資産の売却などを出題しました。基本的な処理が中心ですが、土地の売却については代金の受取方法が2通りであり売却損も発生するため落ち着いて問題文を読んで処理できるかを問うことにしました。

なお、第2問が、仕入系統を中心とした帳簿記入の問題であるため売上系統の仕訳を入れるようにしてあります。

### (2) 第2問

簿記の基本である「仕訳から総勘定元帳への転記」を重視し、平易な仕訳を取り上げ、その記帳方法について問うような問題としました。

### (3) 第3問

3伝票制の起票の仕方に重点を置き、その記入方法を問う問題にしました。

### (4) 第4問

用語選択問題を出題しましたが、基本的なもののみとしました。検定問題を通じてあらためて複式簿記の基本的な仕組みや用語そのものについて考えてもらいたいとの趣旨です。特に「純資産」と「資本」との違いについては過去の長野県簿記実務検定でも出題しています。指導する教員側についても、意識を持っていただきたい部分として考えています。

また、商品有高帳についてはこれから学習が進んでも多くの処理に関係の深い帳簿であるため今回も出題しています。文章や帳簿全体をよく読み、推定することで解答にたどりつくようにしました。難易度は高いですが、時間をしっかりかけて解答してもらいたい問題です。

### (5) 第5問

決算整理については、基本的な内容としてあります。減価償却については、実施時期を踏まえ計算式を入れてあります。勘定の締め切りについても出題し、決算手続き全体の範囲からの出題となっています。

#### 4 その他

簿記総合研究委員会では、今回の問題をベースとした新しい形の簿記検定問題を作成しました。具体的には、第2問の帳簿記入問題について補助簿の記入を無くし転記及び試算表作成を入れた問題です。

今回の「出題の方針」とは別に県商研ながのへ公開します。多くの意見を募集しております。ぜひ、多くの方にご覧いただきたいと思ひます。

より良い長野県簿記実務検定に向けて先生方のより自由で活発なご意見をお待ちしております。  
(形式は自由ですが、参考としてアンケート用紙もアップさせていただきます)